

(世界史プリント8-13)

第18章 現代の世界

b. 社会主義陣営の解体と冷戦構造の崩壊

①ソ連、東ヨーロッパ諸国などでの矛盾の激化→政治・経済の停滞すすむ

②1985 ソ連、[1] の登場(書記長→1990大統領)
→[2]]、グラスノスチ(情報公開)※政策

※きっかけ、[3]]事故

③[4]]外交→冷戦構造の解消と国際的相互依存体制を重視

1)1987中距離核戦力(INF)全廃条約 1988 [5]]からの撤兵表明→89完了
(←1969第1次戦略兵器制限交渉(第1次[6]])→72年合意、核兵器の現状凍結に)

2)1988 [7]]撤兵開始→冷戦外交からの脱却

3)1989 マルタ会談 [8]]の終結を宣言(←→米[9]]大統領)

4)ゴルバチョフの中国訪問=[10]]対立の終結

④中央集権的な社会主義のあり方の再検討

・中央指令型計画経済から[11]]経済への移行

・諸民族共和国の独立要求発生=バルト三国など

⑤1991 8 ソ連、保守派のクーデター失敗→[12]]党の解体

ウクライナ・アゼルバイジャンなど各共和国の連邦離脱→ロシア連邦を中心に独立国家共同体結成
([13]]の消滅)

⑥ゴルバチョフ、制限主権論を放棄=他の社会主義国の行動の自由を承認

→[14]]年 東ヨーロッパ諸国での改革、民主化=15_____の消滅

東ドイツ=ホネカー書記長辞職→[16]]崩壊→1990西ドイツに吸収される
(ドイツ統一)

他の東ヨーロッパ諸国でも共産党支配崩壊=議会制民主主義の実現

→1991 [17]]条約機構、[18]]の解体

↓

ソ連・東欧諸国での経済的劣位性→政局の不安定さ続く、社会主義勢力の復活の動きも

c. 南北問題の重層化

①韓国・台湾・ブラジルなどで工業化進展=「中進国」化([19]])([20]])

→外資の導入によって実現=多くの対外債務を抱える

石油産出国…「オイルマネー」により富裕化→石油価格の下落により苦境に

低所得国…人口爆発・都市への人口集中、内戦・食糧不足などによる難民の増加

②開発独裁政権など非民主的政治システムをとる、自由と人権抑圧の体制や貧富の差への不満が強い
→民主化・自由化要求の高揚
宗教対立([21]]の台頭)や民族対立などと結合、地域紛争

③韓国…[22]]軍事独裁政権、民主化弾圧と高度経済成長政策→1979暗殺される

↓

盧泰愚…近代化・中国朝鮮との国交回復・国連加盟→金泳三…文民内閣の実現→金大中大統領に

※北朝鮮…閉鎖的な社会主義政策・外交のいきづまり→1994金日成死亡、子の金正日政権へ

④[23]]革命…マルコス独裁政権の崩壊→コラソン=アキノ政権の成立

⑤[24]]革命…パフレヴィニ世の近代化政策→ホメイニのもとイラン=イスラム共和国成立

↓

[25]]率いるイラクとの間でイラン=イラク戦争発生

1990 イラクのクウェート侵攻→91米軍を中心とする多国籍軍との間で[26]]戦争発生